

2 拠点を中心とした里山の整備事例

森の不思議を探る拠点づくりを、千葉県森林研究センター内で3箇所、南房総市和田町のきすなの森と香取郡東庄町の東庄県民の森で各1箇所の計5箇所で2006年に実際に行いました。

ここではその拠点づくりの事例を紹介します。

2.1 樹上の拠点とお花見の道を中心とした森づくり

整備地域の概要

整備地域は森林研究センター内の南向きの斜面で、東側が尾根、西側が沢になっています。

拠点の整備を行う場所は東側の尾根上で、上部はサクラが混交したスギ人工林、下部は広葉樹林となっています。林床にはアズマネザサが多く、林冠はほとんど閉じており林床植物の種類は少なくなっています。

西側の沢には水があり、上部はヒノキと常緑広葉樹の混交林、下部はユリノキ、メタセコイアの大径木の林になっています。また、林内は暗く林床植物が少なくなっています(図2.1)。

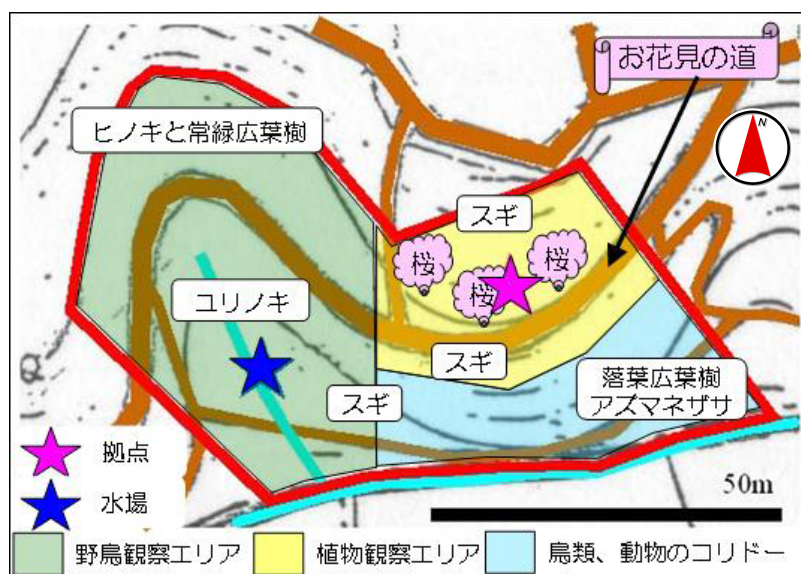


図 2.1 整備地域の概要と利用計画



森林の調査(拠点から南側の休耕田、対岸の森林方向を望む)



調査結果をもとに利用計画を作成し、目標林型、整備方法を検討する

利用計画

東側上部は、スギ人工林の中に生育するサクラを生かし、お花見の道として利用します。また、拠点とお花見の道は、足元、南側の休耕田、対岸の森林などたくさんの植物が観察できるよう見通しを確保し、植物観察エリアとして利用します。東側の斜面下部については、傾斜が急でありアズマネザサが密生しているので、ヤブを好む鳥類や動物のコリドーとして利用します。

西側については、流水を利用して野鳥のための水場を作り、野鳥観察のためのブラインドを設置して野鳥観察エリアとして利用します。

目標林型と整備方法

作成した利用計画に基づき、表 2.1 のように各エリアの目標林型を設定し、目標林型に導くための整備方法を検討しました。

表 2.1 エリア別の目標林型と整備方法

エリア	目標林型	整備方法
植物観察 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 高木層が適度に間伐され林内が明るく草本植物が多い森。 視界をさえぎる低木層やアズマネザサがなく南側の休耕田や対岸の森林が見とおせる森。 	<ul style="list-style-type: none"> サクラを生かし、林床を明るくするためスギを強めに間伐する。 休耕田や対岸の森林が見通せるように、アズマネザサを刈り払いコナラの枝を落とす。
野鳥観察 エリア	<ul style="list-style-type: none"> 水場の周囲に野鳥の隠れ場がないことから、水場の周囲に低木のヤブを作り野鳥が水場を利用しやすくする。 野鳥の餌を提供する樹種が多く、森林の階層構造が発達して、各階層を利用するいろいろな鳥類が生息できる森。 	<ul style="list-style-type: none"> 間伐を行って林内を明るくし森林の階層構造を発達させる。 水場の周囲に野鳥の隠れ場となる低木のヤブを作る。 野鳥の餌を提供する実がなる木や餌となる虫が多い朽ち木を優先的に残す。
鳥類や動物の コリドー	<ul style="list-style-type: none"> 林床にアズマネザサが密生した現状を維持。 	<ul style="list-style-type: none"> 手を加えない。



拠点からの景観（整備前）



拠点からの景観（整備後）



水場の整備



野鳥観察のためのブラインドづくり

2.2 崖の上の拠点と里山の変貌を探る森づくり

整備地域の概要

整備地域は森林研究センターの主に南向きの斜面で、斜面の中腹と下部に平行して遊歩道が設けられています。

中腹の遊歩道より上部は、ドイツウヒが主体の人工林で、林床はアズマネザサが密生しています。中腹の遊歩道より下部は、サクラが主体の広葉樹林で、林床にはやはりアズマネザサが密生しています。

斜面下部の遊歩道は、小さな沢が横断し、管理が放棄された休耕田に接しています。この遊歩道の両側はアズマネザサが密生し、見通しが非常に悪くなっていました(図 2.2)。

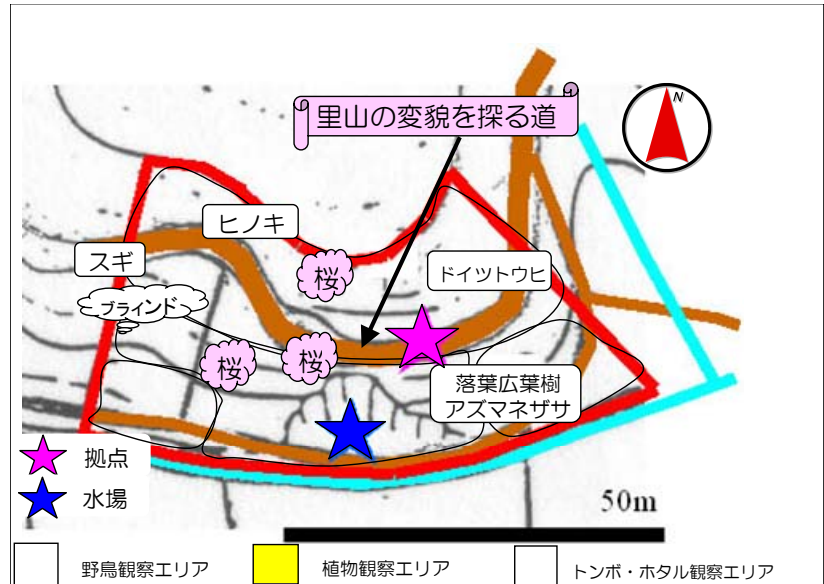


図 2.2 整備地域の概要と利用計画



森林の調査(見晴し拠点周辺)



草本植物の育成等のためにアズマネザサを刈り払い、野鳥観察用ブラインドに利用する。

利用計画

中腹の遊歩道にある少し広い平坦地は、周囲のサクラ及び南方向の休耕田と対岸の森林を眺望する見晴らし拠点として利用します。また、中腹部の遊歩道は、足元、斜面上部にあるたくさんの植物が観察できる植物観察エリアとして利用します。

下部の遊歩道沿いについては、小さな沢を利用して野鳥のための水場を作り、野鳥観察のためのブラインドを設置して野鳥観察エリアとして利用します。また、休耕田に生育するトンボやホタル等の観察エリアとしても利用します。

目標林型と整備方法

作成した利用計画に基づき、表 2.2 のように各エリアの目標林型を設定し、目標林型に導くための整備方法を検討しました。

表 2.2 エリア別の目標林型と整備方法

エリア	目標林型	整備方法
見晴らし拠点	<ul style="list-style-type: none"> • 視界をさえぎる低木層やアズマネザサがなく、南側の休耕田や対岸の森林が見とおせる森。 • サクラのお花見ができる森。 	<ul style="list-style-type: none"> • 休耕田や対岸の森林が見とおせるように、アズマネザサを刈り払いコナラの枝を落とす。 • サクラを生かし、斜面に張り出した丸太テラスと休憩用のベンチを設置する。
植物観察エリア	<ul style="list-style-type: none"> • 高木層が適度に間伐され、林内が明るく草本植物が多い森。 	<ul style="list-style-type: none"> • サクラを生かし、林床を明るくするため、ドイツトウヒ等を強めに間伐する。 • アズマネザサを刈り払い、草本植物を育成する。
野鳥観察エリア	<ul style="list-style-type: none"> • 野鳥の餌を提供する樹種が多く、森林の階層構造が発達して、各階層を利用するいろいろな鳥類が生息できる森。 	<ul style="list-style-type: none"> • 間伐を行って林内を明るくし、森林の階層構造を発達させる。 • 水場を整備するとともに、野鳥が休耕田と行き来できるようにアズマネザサを一部、刈払う。 • 野鳥の餌を提供する実がなる木や餌となる虫が多い朽ち木を優先的に残す。
トンボ・ホタル観察エリア	<ul style="list-style-type: none"> • トンボやホタルなどが生育できるよう、明るく草本植物が多い湿地、小川。 	<ul style="list-style-type: none"> • アズマネザサを刈り払い、湿地に生育する草本植物を育成する。



見晴らし拠点の整備前



見晴らし拠点の整備後



水場の造成



野鳥観察用ブラインドの設置